

<日本語仮訳¹>

技術協力プロジェクト事業完了報告書

平成 17 年 3 月 31 日

ホンジュラス算数指導力向上プロジェクト

終了時派遣長期専門家(赴任順)

算数教育 阿部しおり

業務調整 吾郷珠子

チーフアドバイザー 西方憲広

2003 年 4 月 1 日より 2006 年 3 月 31 日まで実施された算数指導力向上プロジェクト (PROMETAM フェーズ 1) の最終報告書を提出いたします。

1. 活動の総括

計画されたプロジェクトの活動は、本年度 6 月に終了予定の 2・3 年生第 2 版のバリデーションを残しているものの大きな成果とともに実施され終了した。

2005 年 11 月に提出された『プロジェクト最終評価報告書』によると、1 年生から 6 年生の教師用指導書と児童用作業帳教材開発、前述テキスト使用法に関する研修というプロジェクト戦略が的確であったとしている。2004 年ホンジュラス政府はプロジェクトが開発したテキストを国定教科書と認定し、2005 年に全国配布した。その後、全国配布された教材の使用に関する全国研修をスペインと世界銀行の融資により実施した。2006 年に誕生した新政権もプロジェクトの実績を評価し、国家教員養成研修システムの中で普及を図っていくことを検討している。

同様にプロジェクト実施プロセスにおいて本実績が中米カリブ諸国教育省関係者の目に留まるところとなり、その内の 4 カ国から正式に日本政府に技術協力要請が提出された。その要請を受けて本プロジェクトは要請各国に対して技術支援を開始した。2006 年 4 月 1 日からドミニカ共和国、エルサルバドル、ニカラグアとグアテマラの参加を受けて広域プロジェクトとしてフェーズ 2 が開始予定である。

本報告書は主にプロジェクト成果の視点からこれまでの全活動をまとめて報告するものである。

2. 達成された成果

¹ 本文のみ “Informe Final (西語版)” より日本語仮訳。

第 2 版 PDM (添付ファイル 1 と 2 参照) の成果に基づいて報告する。

(1) 開発された指導書と作業帳

成果 1 : 基礎教育課程第 1、2 サイクル算数科指導書を開発する。
成果 2 : 基礎教育課程第 1、2 サイクル算数科作業帳を開発する。

教材開発について以下のように開発を了した。

c

a) 第 1 サイクル

学年	草案	活字化	デザイン	最終チェック
1 年	2003.6~7.	2003.6~7.	2003.6~7.	2003.9.9.
2 年	2003.7~8.	2003.7~8.	2003.7~8.	2003.9.23.
3 年	2003.8~10.	2003.8~10.	2003.8~10.	2003.9.29.

b) 第 2 サイクル

学年	草案	活字化	デザイン	最終チェック
4 年	2003.12.~2004.2.	2003.12.~2004.5.	2003.12.~2004.2.	2004.9~10.
5 年	2004.2~5.	2004.3~6.	2004.3~6.	2004.9~10.
6 年	2004.6~7.	2004.6~8.	2004.7~8.	2004.9~11.
6 年別冊	2004.8.	2004.8~9.	2004.8~9.	2004.11.

c) 第 1 サイクル (第 2 版)

学年	草案	活字化	デザイン	最終チェック
1 年	2004.12.~2005.4.	2004.12.~2005.4.	2004.12.~2005.5.	2005.4~5.
2 年	2005.4~6.	2005.5~7.	2005.5~8.	2005.8~9.
3 年	2005.8~10.	2005.9~11.	2005.11~12.	2005.12.

(2) 能力向上した教員

成果 3 : 研修を受講した 5 パイロット県の現職教員が指導書内容に沿った授業が実施できるようになる。
--

現職教員継続研修プログラム(PFC)²内で以下の通り JOCV により 226 人に直接研修を施した。

² 世界銀行の融資により国立教育大学が実施機関となって現職教員に短大・大学卒資格を与えるためのプログラム。本プロジェクトは本プログラム内の算数教育講座を担当した。実施期間

内容	参加教員数	場所	日時
1 年生内容 第 1、2 モジュール	240	トルヒージョ、ソナゲラ、 ヌエボオゴテペケ、ダン リ、グイノペ	2002.7~9.
2 年生内容	224		2002.9~11.
3 年生内容	215		2003.1.6~23.
第1サイクルまとめ	226		2003.9.20.~11.23.
数学と 4 年生内容	226	ソナゲラ、ヌエボオゴテペ ケ、ダンリ、グイノペ、リ ベルタッド	2004.7.24.~11.6.
数学と 5 年生内容	226		2004.12.6.~2005.1.21.
数学と 6 年生内容	226		2005.5.5.~6.28.
			2005.7.23.~11.13.

(3) カウンターパート指導力強化

成果 4：上記成果 1~3 を通して、カウンターパートの指導力が向上する。

ラモン・ロサ氏³、ドナルド・カルカモ氏⁴（以上教育省）、ルイス・ソト氏⁵（国立教育大学）は前述の活動の関連業務を実施し、算数指導力能力が著しく向上した。

(4) 第 2 版 PDM には記載されていない成果

a.7~9 年生指導書と作業帳の開発

2004 年 12 月、日本人専門家の技術支援を受けながら教育省と国立教育大学のカウンターパートが中心となって 7~9 年生の指導書と作業帳の開発を開始した。

学年	草案	活字化	デザイン	最終チェック
7 年	2004.12.~2005.2.	2004.12.~2005.5.	2005.2~5.	2005.4~5.
8 年	2005.7.	2005.8~9.	2005.9.	2005.10.
9 年	2005.5~6..	2005.5~8.	2005.6~8.	2005.8.

b.4~6 年生補充練習問題集

(5) 算数の学力強化のために 4~6 年生の補充練習問題集を開発した。

学年	草案
4 年	2004.7~8.
5 年	2004.9.~2005.4.

は 1998 年 ~ 2006 年。

³ 2003.7.~2005.2.

⁴ 2005.5.~12./ 2006.3.

⁵ 2004.12.~2006.3.

6年	2005.10..
----	-----------

c.他のプログラム・プロジェクトに対する研修

プロジェクトは INICE において他のプログラム・プロジェクトに対する研修も実施した。

対象プロジェクト	研修内容	人数	日時	講師
a) プロジェクト “ルイス・ランダ” 6	1~3年生内容のまとめ	15	2004.5.27.~29.	木村専門家、ラモン・ローサ教育省 C/P
	数学と5年生指導法	10	2005.2.23.~24.	木村専門家
b)PFC,FID,CIE, 地方 INICE ノルマル校	数学と4年生指導法	48	2004.7.9.~11.	木村専門家
	数学と5年生指導法	30	2004.12.3.~4.	
	数学と6年生指導法	50	2005.2.15.~27.	

d.国レベル算数教育講師に対する研修

INICE のコーディネーションによって PFC,プロジェクト“ルイス・ランダ”、ノルマル校の講師に対して研修を実施した。本研修受講生は県・市町村レベル講師として研修を施した。

研修費（日当・食費）はスペインのプロジェクト“ルイス・ランダ”によりカバーされ、本研修受講生は、全国教員に対して研修を施すことを確約した全国 18 県レベル算数教育講師 780 名に対し研修を実施した。

対象プロジェクト	研修内容	人数	日時	場所	講師
国レベル算数教育講師	1~3年生指導書と作業帳使用法について	36	2004.5.27.~29.	INICE	木村専門家
国レベル算数教育講師	4~6年生指導書と作業帳使用法について	37	2005.5.13.~15.	サンペドロスーラ	阿部専門家、東矢シニア隊員、ドナルド・カルカモ教育省 C/P、ルイス・ソト教育大学 C/P

6 スペインの現職教員研修を中心としたプロジェクト。2000.9.~2005.12..

3. 達成された目標（添付ファイル3参照）

プロジェクト目標：算数指導法が向上する。

達成された。

上位目標：算数学力が向上する

以下の条件の下、学力が向上することが判明した。

- ・ 作業帳に書き込むことを通して個別学習を十分実施する。
- ・ 作業帳を家に持ち帰り宿題をする。
- ・ （教員の）学力と指導力向上のための研修を実施する。

4. プロジェクト活動実績（添付ファイル4と5参照）

計画された活動は実施された。

5. JICA 投入実績

（1）日本人専門家（添付ファイル6参照）

プロジェクト実施期間中、長期専門家5名、短期専門家が5名派遣された。

（2）PFC講師としてのJOCV（添付ファイル7参照）

プロジェクト実施期間中、2名のシニア隊員と32名のJOCVが派遣された。

（3）ローカルスタッフ（添付ファイル8参照）

プロジェクト実施期間中、17名の現地スタッフが雇用された。

（4）本邦研修（添付ファイル9参照）

2003年度は3名、2004年度は教育省関係者13名・国立教育大学関係者4名が本邦研修に参加した。プロジェクトは合計20名の本邦研修を実施した。

（5）供与機材（添付ファイル10参照）

添付資料10のように合計13,834,500円（約135,000US\$）の機材を供与した。尚、供された機材はフェーズ2でも使用される。

（6）現地活動費（添付ファイル11参照）

執行された現地活動費は758,092.61レンピーラであった。

6. 合同調整委員会（添付ファイル 12、13 参照）

合同調整委員会は合計 2 回（2004.4.21.と 2005.5.6.）開催された。

7. 教訓

（1）技術面

- ・ 児童の学力向上のための算数授業では、（教師の）関係な内容説明と十分な個別学習が必要である。
- ・ 算数授業では児童に作業帳に直接書き込み学習すること、宿題のために家に作業帳を持ち帰らせることといった児童用作業帳を使用した学習の重要性を強調し続けることが重要である。
- ・ 指導書と作業帳の内容はより精選する必要がある。

（2）マネジメント面

- ・ プロジェクト成功のためには先方政府の巻き込みが重要である。本プロジェクトでは特に PFC 研修に関する国立教育大学との深い関係構築ができた。
- ・ プロジェクト実施期間中、中央レベルと地方レベルの間で研修や評価活動に関してコミュニケーションに関する困難に遭遇した。全ての活動実施前に前アクターに対して確認作業をすることが推奨される。
- ・ プロジェクト成果やプロジェクト終了後の普及課程を保障するために国家教育政策戦略計画の中で読み込まれている必要がある。

以上